

# 世界で活躍中の先輩たち ～海外出向～

## LSE



### 国際都市ロンドンで学ぶ

私は現在、LSE(ロンドンスクールオブエコノミクス)のLLM(法学修士)にて税法コースを履修し、主に租税政策・国際課税を勉強しています。国際都市の名のとおり、コースメイト(30名弱)のバックグラウンドは多様です。その大半が留学生であり、国籍は様々。私のような政府職員もいれば、弁護士、会計士、税法を初めて学ぶ人もいます。そんな彼らと議論しつつ、税に関する論文を読み込む日々は、貴重で充実しています。

## OECD事務局



## 柳生 修吾 LSE(留学) 令和3年入庁

### 税を軸に学びを紡ぐ

留学は、これまでの「税」に関する業務を通じて育てた問題意識を掘り下げ、考えを深めていく機会にあふれていると感じます。「税」という軸を持ちつつ、異国の地で考えを磨き、将来の業務に活かしていく。こうした「税を軸に学びを紡ぐ」機会があることは、国税庁の大きな魅力です。

## 大西 篤史 OECD事務局(派遣職員) 平成23年入庁

### パリの日本人専門家からみえる 国際課税の執行の一幕

租税条約に反する課税がされた場合に、これを締結国間の税務当局の協議により解決する手続(相互協議手続)について、その適切な実施のために定められたミニマムスタンダードの遵守の状況を国際会議の参加国同士で互いに審査を行う仕組みがあります(ピアレビュー)。私は、パリのOECD事務局に出向し、このピアレビューにおける審査対象国についてのレポート作成や承認のための会議対応等を担当しています。各国の事情や執行状況は多様で、こうした違いを前提にどうやってその改善を促すか。相手の意見を正確に理解し、そのうえで我々の意見を受け入れてもらえるように伝える能力、そして何より情熱が、どこで誰とどんな仕事をしていても不可欠であることを日々実感しています。異なる文化圏出身の仲間と一つの目標に向かって切磋琢磨する充実した時間と、休憩時間でのコーヒーやパーティでのワインが、私の情熱の燃料になってくれます。



南カリフォルニア大学(留学)  
**菅藤 理也** 平成31年入庁  
南カリフォルニア大学



### 初めての留学へ

留学なんて学生時代に考えたこともなかった。そんな自分の背中を押したのは、国際機関や国際会議で活躍する先輩達への憧れだった。

「マサヤ、この問題を解いてくれる?」突如教授が自分を指名する。拙い英語で回答し安心していたら、角度を変えた再質問に頭が真っ白に……。思い返してはため息をつく出来事を積み重ねながら、四苦八苦する日々だ。

### 学びは日々の中に

政府を批判する落書き。社会を支える移民系労働者。夜通しパーティをする学生とホームレス。日々の光景が米国の「今」を日本の行政官である私に訴えかける。私はどこから来たのか、私は何者か、私はどこへ行くのか、否が応でも考えさせられる留学は貴重な経験だ。

この冊子を手にしたあなたへ。国税庁は多様な業務と成長できる機会があります。門を叩く価値はきっとあるはずだ。

## プリンストン大学



## 尾張 佳也 プリンストン大学(客員研究員) 平成16年入庁

### 激動する世界の中で思うこと

私は現在、プリンストン大学国際安全保障研究所に所属し、行政機関の国際貢献をテーマに研究しています。プリンストンでは、大学を中心に世界中から様々な分野で活躍している人材が集まって密接なコミュニティが形成されており、異なるバックグラウンドの人々と交流することで、今世界で起きていることを肌で感じ思考を深める毎日です。研究のみならず、今、国際情勢が激動する中で、米国で生活すること自体が私にとって価値の高い経験だと感じます。現在の環境では「自分の仕事が好きか」よく聞かれますが、躊躇なく「I love it」と答える自分があります。20年以上のキャリアを経て、国税職員であることが単なる職業ではなく、自身のアイデンティティになっているように思います。このやりがいを皆さんとも共有できたら嬉しく思います。

## 世界銀行



## 荒木 勇樹 世界銀行(シニアガバナンススペシャリスト) 平成21年入庁

### 税の仕事で、世界を飛び回っています

世界銀行に出向し、早四年目になりました。ワシントンD.C.を拠点に、アジアや太平洋島嶼国など世界各地を飛び回りながら、各国の政府と直接議論を重ねています。現地を訪れ、相手国のニーズを把握し、税を通じた国づくりに取り組む。それが今の私の仕事です。現地の税務職員と向き合い、共に議論する時間は、毎回、とても刺激的です。立場や文化の違いを越えて築かれていく信頼関係や人とのつながりは、国税庁に戻ってからも、自分の仕事を支えてくれる大切な財産です。税を通じた国際支援のニーズは日々高まりつつあります。国際的な舞台で挑戦したいと考える方には、国税庁は自信をもっておすすめできる職場です。